

教員の個人評価集計及び分析結果 (平成26年度実績)

総合情報基盤センター

1 個人評価の実施状況

1.1 対象者数、実施者数

総合情報基盤センターの個人評価の対象者は、教員4名(教授1名、准教授2名、助教1名)である。個人評価は全員が実施した。

1.2 個人評価の実施概要

センター運営委員会の下に、センター長、副センター長2名及び運営委員会委員1名から構成される評価専門委員会を設置し、書面会議にて、個人評価を実施した。評価専門委員は、以下の通りである。

松前進	センター長(総合情報基盤センター 教授)
只木進一	副センター長(工学系研究科 教授)
高崎光浩	副センター長(医学部 准教授)
廣友雅徳	運営委員(工学系研究科 准教授)

実施にあたって、「活動実績報告及び自己点検・評価書」の書式ファイルをセンター専任教員に配布し、各自が記入して提出した。

2 評価領域別の集計・分析と自己点検評価

2.1 教育の領域

評価項目ごとの実績集計と分析

- 教養教育5科目、及び学内非常勤講師として学部専門教育6科目を担当し、適切に実施した。
- 教授1名、准教授2名が工学系研究科の専任であり、4科目を担当し、適切に実施した。
- 教育改善活動として、講義資料の公開、質問・コメント集の公開、e-learning や webclass システムの活用、小テストの実施、シラバス公開、授業評価の実施、などを行った。
- 全教員が卒業研究の指導またはその補助を行った。
- 大学院担当の者は、大学院生の主指導または副指導・補助を行った。

活動評価集計と分析

- 5段階評価の自己点検評価の平均は3.9であった。総合情報基盤センターは、情報基盤関連業務を中心として活動するため、学部等の教員に比べて教育負担は少なく設定されている。授業改善については、ICTを活用した取り組みが活発である。
- センター業務と関連し、編入生、他大学からの大学院進学者、10月入学者、留学生などへの利用者講習を継続的に行っている。

部局としての自己点検評価

- 教育担当部分について、適切に実施している。
- 情報技術を用い、資料や課題の提示やWebでの提供など、ICTを活用した授業改善活動への積極的な取り組みが行われている。
- センター業務と関連して、非正規の教育活動も実施している。

2.2 研究の領域

評価項目ごとの実績集計と分析

- 3名の教員が、過去3年間に審査付き学术论文を発表している。
- 全教員が、過去3年間に口頭発表論文を発表している。
- 国際会議への参加も行われている。
- 教授1名、准教授1名が学内他部局及び学外との共同研究を行い、実績をあげている。
- 教授、准教授2名が科学研究費補助金への応募など外部資金獲得の努力をしている。
- センター業務と関連した研究テーマに関する研究も活発に行われている。

活動評価集計と分析

- 5段階評価の自己点検評価の平均は3.5であった。
- センター業務と関連した研究テーマが行われている。
- 審査付き学术论文や国際会議参加が無い教員があり、研究活動が低下している。
- 科学研究費補助金などの外部資金獲得への努力が不足している教員がみられる。

部局としての自己点検評価

- 各教員が背景とする研究分野及びセンター業務と関連した研究が、概ね適切に実行されていることが学术论文、口頭発表などに表れている。
- 国際会議論文、原著論文などの成果物が不足している教員がみられる。
- 科学研究費補助金などの外部資金獲得への努力が不足している教員がみられる。

2.3 国際交流・社会貢献の領域

評価項目ごとの実績集計と分析

- 留学生 1 名の受け入れがある。
- 過去 3 年間で、国際会議参加が 1 8 件ある。
- 3 名の教員に、学内外の情報化支援の取り組みがある。
- 3 名の教員に、学会や学外委員会活動への参加実績がある。

活動評価集計と分析

- 5 段階評価の自己点検評点の平均は 3. 7 であった。
- 地域貢献、国際貢献・交流活動等は概ね行われているが、活動量や内容に個人差が大きい。

部局としての自己点検評価

- 地域貢献、国際貢献・交流活動等は概ね行われているが、活動量や内容に個人差が大きい。

2.4 組織運営の領域

評価項目ごとの実績集計と分析

- 情報戦略本部会議や情報企画委員会をはじめ、学内の各種情報関係の打ち合わせ等での活動を行っている。
- センター業務として、センターで管理するシステムに関して各部局との連携や調整を行っている。
- 学術基盤システムのリプレースを行った。
- ネット授業の運営に協力している。
- センター運営に関わる組織業務を、全教員で分担して実施している。

活動評価集計と分析

- 5 段階評価の自己点検評価の平均は 4. 1 であった。
- スタッフ数が少ないため、各教員が多くの業務を分担して行っている。

部局としての自己点検評価

- 総合情報基盤センターは組織としては小さいが、全学の情報基盤の整備・運用という重責を担う組織である。それゆえ、運営には全教職員の積極的な関与が不可欠であるが、各教員の評価値は 4. 0 以上であり、適切に活動が行われている。

2.5 その他の領域（教育研究支援）

評価項目ごとの実績集計と分析

- 各種サービス・システムの開発・運用に教員が取り組んでいる。
- 学外の研究会やセミナーなどに参加し、積極的に情報収集が行われている。
- 学内、地域の情報化支援に積極的に取り組んでいる。

活動評価集計と分析

- 5段階評価の自己点検評価の平均は3.9であった。
- 全教員が各種サービス・システムの開発・運用に関わっている。
- 学内、地域の情報化支援に積極的に取り組んでいる。
- 活動の内容には個人差がある。

部局としての自己点検評価

- 全教員が、教育研究支援活動を行っており、評価する。

2.6 教員の総合的活動状況に関する自己点検評価

- 少ない人数で大学の情報基盤を担う業務を行いながら、教育、研究、国際・社会貢献、組織業務、教育研究支援の各領域において、概ね適切な活動が行われている。
- 学術基盤システムのリプレース作業という大きな仕事があったにもかかわらず、昨年度と比べ各領域での評価値が平均+0.1～+0.3ポイント増加しており、評価できる。
- 活動内容・量に個人差が大きい。人の異動によって業務に支障が出る恐れがある。